

「大学教育の社会的要請に関する世論調査」から

教授 倉 石 精 一
 助手 岨 中 達
 助手 鑪 幹 八 郎
 大学院博士課程 住 田 幸 次 郎

は し が き

本調査は総合研究「高等教育に対する社会的要請」の分担課題として、資料提供の目的で行われたものである。

調査のねらいは、比較的最近に大学生生活を身をもって体験した人々（調査A）と、大学卒業生を採用する立場から大学生の教養ならびに人格形成に関心をもっている人々（調査B）から現在の大学教育についての批判的意見をもとめることであつた。

調査方法は、それぞれ17項目からなる質問調査表を用いて、郵送法によつて行った。標本選択に関しては、費用との関係で郵送数を調査A600、調査B300と押さえ、それを表1及び表2のように配分した。調査Aについての標本選択は便宜的のものであつてさしたる根拠をもたない。今回の調査はいわば探索的段階での調査であつて、漠然としたねらいなのである。高等教育の批判については、たとえば新制の大学教育と旧制のそれとを比較対照することによつて問題点を明らかにする仕方、異つた大学あるいは学部を比較対照することによつて問題点を提起する仕方等種々考えられるが、前者においては被調査者間の世代のちがいや、大学入学前の教育経歴のちがいが、大学教育そのものの比較検討のためには、むしろさまたげになる条件差となる。そこで本調査では後者の立場をとつたのであるが、調査規模が

きわめて小さいので、我々の在職する京都大学のいくつかの学部及びそれと対照する意味で、若干の公私立の大学から標本をとるにとどまつた。学部の選択は京大から人文系4学部とそれぞれ教育の方針の異なる

第1表 <調査A> 回収率

	発送数	回収数	%
京大法学部	50	18	36
〃 経済 〃	50	17	34
〃 文 〃	50	15	30
〃 教育 〃	50	28	56
〃 理 〃	50	29	58
〃 工 〃	50	27	54
〃 医 〃	50	19	38
同志社法学部	50	10	20
〃 工 〃	50	16	32
府立大文家政学部	50	9	18
〃 医科大学	50	12	24
京都学芸大学	50	13	26
小 計	600	213	35.5

と思われる自然系の理・工・医の3学部を選び、それと対照することを予想し同志社（法・工）、

府立大（文家政・医），及び京都学芸大を選んだ。残念なことには表1のように回収率が予想を下廻り，当初のねらいである比較検討のためには，あまりに小さな標本になり，目的を果し得なかった部分が多い。被調査者は主として昭和 33, 34, 35, 年度の卒業者の中からそれぞれ 50 名

第2表 回収率 <調査B>

	発送数	回収数	%
公 社	12	6	50
官 庁	50	19	38
企 業	238	104	44
小 計	300	129	43

を無作為抽出し若干それ以前から補ったが，卒業者名簿記載の住所からの無届移転が相当あり学部によっては著しく回収成績の悪い結果となった。被調査者の卒業年次の選定は，新制大学発足当時の未整備時代の学生をさけて，一応，新制の学制が安定したと思われる時期の学生であり，かつ卒業後若干の社会生活をj験しているという条件をみたすものとして，選んだものであった。

調査Bの標本は，主として各産業別の大企業 238 社の人事部長もしくはそれに代る人，及び12の公社，50の官庁の採用責任者であった。回収率は表2に示される。これらの調査は昭和37年8月20日～9月末日にかけて行われた。

本報告は，以上の計画によってなされた調査の一次集計資料から若干の問題点を指摘したものであり，ここから結論的のものを引出すための確実性に欠けると思われるが，もし総合研究の各班別研究者や，その他この問題の研究者の参考資料たりうれば幸いと考え，若干の紙面をかりる次第である。

I 調査Aの概要

調査Aの17質問事項の(1)(2)(3)は氏名・性別・出身校・年次・現在の職業に関するもの，(17)はこの調査についての批判を求めたもので詳細は省略する。職業は大部分が俸給生活者であり医学部出身者の一部に開業医が含まれていた。質問項目(4)以下のものについては，各項目毎に質問の原文を記載して，そこで得られた知見を要約的に記述してゆくことにする。

(4)は被調査者の調査当時の収入調べである。既に2年以上を経過していることと職域が広汎にわたっているのを平均化

(4) 今の月収(税込み)は凡そどのぐらいですか。(いずれかに○印をつけて下さい)

- (1) 9,999円以下
- (2) 10,000—14,999円
- (3) 15,000—19,999円
- (4) 20,000—24,999円
- (5) 25,000—29,999円
- (6) 30,000—34,999円
- (7) 35,000—39,999円
- (8) 40,000—49,999円
- (9) 50,000円以上

第3表 月収はどのぐらいか
京大における文・理系の比較

京 大	月 収		計
	25,000円以下	25,000円以上	
文 系	52	24	76
理 系	21	54	75
計	73	78	151

$$\chi^2 = 24.697 \quad P < .01$$

しても意味がないこと、そうかといって原資料をそのままあげるのは徒らに紙面を費やすことになるので、この細部にわたっての分析はこの報告ではこれを割愛する。

表3は京大出身者だけについて、原資料から二次抽出をして、文科系理化系列の月収を対照したものである。この範囲では明白に、理科系出身者の月収がより多いといえる。この不均衡は同一企業体内での待遇上の差によるのではなく、技術者不足のため、理科系出身者が給与条件のよい職域に容易に就職しうる事実を物語っていると見られる。大学別・学部別にこれを比較するためには適切な資料とはいいいくいが、ここでは何等の差を見出し得なかった。

(5)のねらいは、大学においてえた教養と現在の職業との関連性についての意識調査であり、京大文科系出身者と理科系出身者を対照してみると表4のようになる。理科系出身者で現職と大学における専攻との関連性を否定しているのは例外的な少数にとどまるに反し、文科系では半数以上が否定的であるのは注目に値する。これはいろいろの議論の生ずるところと思われるので、後にこの点にふれることにする。

質問(6)に対する回答資料については213名中151名の大部分が卒業と同時に現職についている。これと他の項目に該当するものとの比率について、大学間、学部間、あるいは文科系・理科系の対照において何等の有意差をみとめることができなかった。

(5) あなたの現職と大学において専攻された学問(法, 経, 文といった大まかな分類で結構です)との間には, どの程度関連性があると考えられますか(次のいずれかに○印をつけて下さい)

- (1) 直接に関係がある。 (2) やや関係がある。
 (3) 関係のある場合もあり, ない場合もある。
 (4) あまり関係がない。 (5) 全く関係がない。

第4表 Q5. 大学における専攻と現職との関連はどうか。
 京大における文・理の比較

京 大	専 門 度		計
	関係あり (1)+(2)	な し (3)+(4)+(5)	
文 系	34	42	76
理 系	72	3	75
計	106	45	151

$\chi^2=47.418 \quad P<.01$

(6) あなたはどのような経路で現在の職業につかれましたか。

- (1) 卒業と同時に今の職業についた。 (2) 卒業と同時に今とは別の職業についた。 (3) 卒業後しばらくして(約年間)今の職業についた。 (4) しばらくして別の職業についた。 (5) 何種(1.2.3.4.5~種)かの職業をかかわった後, 今の職業についた。 (6) その他:

(7) あなたが現在就かれている職種はつぎの諸点からみるとどれにあたりますか。

- (i) 特定の学科()の専攻者であることが必要
 (ii) 特定の学問領域または**連接領域**()を専攻していることが望ましい。
 (iii) 大学卒であれば専攻はとくに関係しない。
 (iv) 大学出でなくても高校卒程度で間に合う。
 (v) 大学卒, 高校卒といった学歴には無関係である。

第5表 Q7. 現在の職業は専門的知識を必要とするか

京 大	専 門 の 程 度		計
	専門的職業 (i)+(ii)	な し (iii)+(iv)+(v)	
文 系	39	37	76
理 系	72	3	75
計	111	40	151

$\chi^2=23.615 \quad P<.01$

質問(7)の回答においても、選択項目による学部間、大学間の差異は明瞭でなかった。たとえば京大工学部と同志社工学部、京大法学部と同志社法学部の間には有意の差をみとめ得なかった。ただし京大内の文科系の回答を比較してみると、表5のようになり、理科系出身者の大部分が専門的職業に従事していることがわかる。

質問(8)は現職が自分の学歴にふさわしいかという問いによって、現職についての職務満足度を見ようとするもので、出身学部別平均評定値は表16に記載して

いる。表6は京大の文科系と理科系を比較してみたもので、ここでも理科系の方が高い満足度を示している。しかし、職業と専門教養との関連についての回答(表4)に比べて、幾分文理間の差は小さくなっている。

(8) あなたの現在の職業は、あなたの学歴にふさわしいものと考えられますか。(下の段階をあらわす数字のいずれかに○印をつけて下さい)

全くふさわしい | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 全くふさわしくない。

第6表 Q8. 現在の職業は、あなたの学歴にふさわしいか

京大	ふさわしさの程度			計
	ふさわしい (5)+(4)	ふさわしくない (3) (2) (1)		
文科系	43	33		76
理科系	59	16		75
計	102	49		151

$\chi^2=8.428 \quad P<.01$

(9) 大学は卒業後のあなたにどんな面でプラスになっていますか(プラスになっている順に番号をつけて下さい。必ずしも全部いれる必要はありません)

- () 一般的な教養をふかめる上で () 専門的な知識や能力をたかめる上で
- () 職業上の地位や給料の上で () _____試験(例. 公務員試験)に資格を得たことで () 就職に成功した上で () 努力したという経験から自分に自信が出来た () 今後の研究の土台ができて () 友人との接触の上で
- () その他 _____ () 特にプラスなし

第7表 Q9. 大学は卒業後どんな面でプラスしているか。

(注) {○印は相対的に選択比率の高い項目、×印は低い項目、(上位2項目, 下位2項目をとる)}

項目	(イ) 一般教養	(ロ) 専門知識	(ハ) 地位や給料	(ニ) 資格の試験合格	(ホ) 就職の功成	(ヘ) 自分への自信	(ト) 研究の基礎	(チ) 友人との接触
京大 工	○ ₁	○ ₁		× ₁	× ₂			
理	○ ₂	○ ₁		× ₁	× ₂			
医		○ ₁	○ ₂		× ₁	× ₂		○ ₂
教	○ ₁	○ ₂		× ₁	× ₂			
文	○ ₂		× ₁	× ₁	× ₁	× ₁	○ ₂	○ ₂
法	○ ₁	○ ₂	× ₂		× ₁			○ ₂
経	○ ₁			× ₁	× ₁			○ ₂

質問(9)は、大学生活が卒業後の生活からふりかえって、どの面でプラスになっているかの評

価を求めたものである。回答の選択肢を10個用意し、品等法によって評定させた。表7は京大の各学部別に選択比率の高い項目と低い項目を2項づつとって対照したものである。各学部を通じ、就職の成功、資格試験の合格に、大学生生活が役に立ったという選択は低く、ほとんど一致した傾向

- (10) 現在あなたは出身大学とどの程度の交流を保っていますか（次のどれかに○印をつけて下さい）
- (4) 常に緊密に連絡を保っている。
 - (3) 時折り相談をもちかけたり交渉をもったりしている。
 - (2) 平素は殆んど何の交際もなくせいぜい同窓会に出席したり、連絡したりする程度。
 - (1) 全然没交渉である。

第8表 Q10. 現在出身大学とどの程度の交流を保っているか。

京大	交 流 度		計
	あ り (4+3)	な し (2+1)	
文 科 系	16	60	76
理 科 系	50	25	75
計	66	85	151

$\chi^2=30.466 \quad P<.01$

第9表 Q10. 京大文系内の比較

京大文系	交 流 度		計
	あ り (4+3)	な し (2+1)	
文 + 教	15	28	43
法 + 経	2	33	35
計	17	61	78

$\chi^2=9.720 \quad P<.01$

第10表 Q10. — 京大と同志社の比較

京大×同大	交 流 度		計
	あ り (4+3)	な し (2+1)	
京 大	66	85	151
同 大	9	17	26
計	75	102	177

$\chi^2=0.753 \quad P>.05$

向が示される。選択率の高い項目については学部間に若干の差異が見られる。工・理・教育の3学部については専門知識と一般教養が選ばれているが順序はそれぞれ異っている。医学部は専門の他に地位や給料の上でプラスになっているというのは特異な点であり、教育学部を除く人文系3学部は一般教養と友人との接触を選んでいるのが注目される。また文学部は専門知識よりも、研究の基礎ができたということでのプラスを選択しているのも特異の傾向とみられる。京大に関する限り、卒業生がプラスになると評価している度合からすると、専門教育は理科系学部に着しく、一般教養は人文系に着しいといえよう。

質問(10)は卒業後の大学と交流を保っている度合をしらべたもので、積極的な交流は半数にみえない状況である。これを文科系と理科系にわけて見ると、理科系は連絡ある方が多いが文科系は極めて低い交流度である。こころみに文科系を更に法・経と文・教育にわけてみると、法経は殆んど交流度をみとめられないが文・教育においては半分は交流を保っている結果になる。

大学間の差異については表10のように京大と同志社との間に差はみとめられない。

質問(11)は大学入試の現状の批判と今後の改善策についての意見を求めたつもりである。思いがけない批判や改善策の

京都大学教育学部紀要 X

でるのを期待して、この回答は自由記述で求めた。各人の記述を要約し、その趣旨を分類すると無関心無記入及びその他をふくめて9箇に分類される。約1/4の無関心組をのぞき、要旨(1)から(4)までの入試の弊害を主張するものと(5)~(7)までの、現状を肯定するものに2分される。まえに予備校生及び高校生等について大学入試についての意見を調べたとき、同様に肯定者と否定者の数が相半ばしたが、過去において入試競争を経験し、その勝利者として大学を巣立った世代においても同様な傾向が見られる。

大学入試改善については、教育関係者や年頃の子弟をもつ有識者の世論の大勢をしめていると判断されるが、まだ若い世代においては、賛否相半ばする議論であることを考慮する必要がある。

他大学のこの質問に対する回答について顕著な傾向を抜き出すと、学芸大学回答者の46% (6/13) は(2)下級学校の予備校化を指摘し、府立医大回答者の41% (5/12) は(7)現状肯定であり、同志社回答者の19%は(6)入試は緩和されたと判断し、また46% (12/26) は(9)無関心・無記入であったこと等である。

なお前記各質問に関して、京大文科系・理科系には、差異のあるものが多かったが、本質問回答に関しては差はみとめられなかった。

表12は入試の改善策についての意見であるが、ここでは意見は12箇の少数意見に分かれていて大勢はつかみにくい。一般世論に現われるものの縮図であるかの感がある。ここでも文科系と理科系には

(11) あなた御自身の受験時代と比べて、現在の大学入試の現状をどのように御覧になりますか。御意見をお聞かせ下さい。

(現状について)

(今後の方向について)

第11表 Q11. 自分の受験時代と比べて現在の大学入試をどう思うか。(現状)
(京大出身者のみ)

要 旨	類 数	%
(1) 大きな弊害をもたらしている	38	24.8
(2) 小中学校が予備校化	11	7.2
(3) 入試の改善必要	4	2.6
(4) 受験者の質が低下	3	2.0
(5) 入試は人間形成にとって必要	4	2.6
(6) 入試は緩和された	18	11.8
(7) 現状でよい、変りない	36	23.5
(8) その他	3	2.0
(9) 無関心、無記入	36	23.5
	153	

第12表 Q11. — 今後の方向について
(京大出身者のみ)

要 旨	反 応 数	%
(1) 全体としての人間を重視せよ	19	12.4
(2) 大学の均等化をはかれ	18	11.8
(3) 全員入学を行い、学科試験を厳しく	13	8.5
(4) 適性検査を実施せよ	10	6.5
(5) 高校の成績を重視せよ	9	5.9
(6) 応用問題を重視せよ	8	5.2
(7) 英才教育の方途を考えよ	8	5.2
(8) 専攻により重点的な入試を行え	8	5.2
(9) 全一斉テスト	6	3.9
(10) 定員を増加せよ	3	2.0
(11) 先ず基本的な社会の問題改善	3	2.0
(12) 専攻別でなく、あわせて入試	3	2.0
(13) 現状でよい	8	5.2
(14) その他	3	2.0
(15) 無記入	34	22.2
計	153	

差はみとめ得ない。わずか適性検査を主張するものが10名中8人までが文科系出身者，応用問題

(12) あなたの体験から大学卒という学歴は就職の際や職場内において差別があると思いますか。

(ある。ない。)(ある場合)どんな差別ですか。(その番号を○でかこんで下さい)

1. 大学卒と高校卒
2. 一流大学卒と二流の大学卒
3. 同一大学内の学部差
4. 国公立大と私立大
5. 旧帝大とその他の大学
6. 同一大学の新制と旧制
7. その他 ()

具体例：説明：

(13) 現在，学窓にいる大学生はどのような点の訓練や教育が不足していると，お考えになりますか。

第13表 Q13. 現在の大学生に何が欠けているか
(京大出身者のみ)

要 旨	反 応 数	%
(1) 一般教養，社会的訓練	50	32.7
(2) 専門教育の期間	19	12.4
(3) 実地的な知識	16	10.5
(4) 視野がせまい	15	9.8
(5) 語学力	12	7.8
(6) 独立性+積極性	11	7.2
(7) 研究的態度	7	4.6
(8) だいたいよい	5	3.3
(9) その他	1	0.7
(10) 無記入	17	11.1
計	153	

の重視を説くもの8名中6名までが理科系出身者である点だけであった。

質問(12)は，一般に流布されている学歴による差別，学閥による差別を，どのように意識しているかの調査であるが，全体的傾向として大学卒と高校卒との差別だけを認め，他の差別については，すべて否定的であった。この反応は，大学間にも学部間にも差はみとめられなかった。

質問(13)は後輩に対する注文をしらべ目的をもっている。表13は京大出身者のそれで(1)一般教養・社会的訓練の欠除を指摘するものが第1位を占めてい

(14) あなたがお受けになった大学教育をふり返って，現在の大学教育をつぎのような観点から，それぞれ5段階に評定して下さい。(5—非常によい。4……3……2……1—非常にわるい。)それぞれ簡単に理由をつけて下さい。

項 目	評定	理 由	項 目	評定	理 由
教官—学生の人間関係			進級・制度について		
入学試験制度・科目			研究室・ゼミの制度について		
諸種の校内指導について			単位制(及び試験)について		
施設・設備について			学部・学科の区分について		
就聯指導について			文化活動について		
授業方法について			運動部活動について		
専攻科目内容について			自治・政治活動について		
一般教養課目の内容について			学生相互の交流について		
語学の授業内容について			その他		

第14表 Q14. 大学教育についての評価 大学学部別評価平均値原表(最良5.00≧変域≧1.00最悪)

項目 学部別	教官と の人間 関係	入試制 度・科 目	校 内 指 導	施 設 設 備	就 職 指 導	授 業 方 法	専攻科 目内容	一般教 養科目 内 容	語学の 授業内 容	進 級 制 度	研究室 ゼミの 制度	単位制 につい て	学部・ 学科の 区分	文化活 動につ いて	運動部 活動に ついて	自治・ 政治活 動につ いて	学生相 互の交 流につ いて	(1)~(8) の累計	左平均 ($\frac{1}{17}$)	Q8. 学歴 に対する 満足度, 平均
	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)	(ヘ)	(ト)	(チ)	(リ)	(ヌ)	(ル)	(ヲ)	(ク)	(カ)	(コ)	(セ)	(シ)			
京大工	2.90	3.31	2.65	3.07	3.04	3.11	3.85	3.19	2.89	3.46	4.23	2.96	3.62	3.38	2.85	2.88	3.15	54.54	3.21	4.00
理	2.90	3.11	2.37	2.61	3.00	2.83	3.59	2.97	2.86	3.12	3.31	2.90	3.33	3.14	2.96	3.03	2.93	50.96	3.00	4.20
医	2.05	2.81	2.73	3.35	3.36	3.00	3.40	3.00	2.67	3.54	2.64	3.57	3.60	3.38	3.56	2.81	3.44	52.91	3.11	4.74
教	3.11	2.82	2.52	2.63	2.70	2.81	2.96	2.89	2.63	2.96	3.28	2.78	2.74	2.92	2.96	2.96	2.88	48.55	2.86	3.54
文	2.80	2.54	3.00	3.00	2.27	3.31	3.40	2.64	3.43	3.00	2.93	2.93	2.93	3.33	2.91	3.08	2.46	49.96	2.94	3.67
法	2.25	3.40	2.45	2.87	3.17	3.00	4.00	2.86	2.73	3.17	3.43	3.46	3.50	3.27	3.00	3.25	2.75	52.56	3.09	3.94
商	3.30	3.81	2.41	3.00	2.88	2.69	3.81	2.94	2.65	3.20	4.06	3.06	3.20	3.20	3.25	3.00	2.75	53.21	3.13	3.24
京大全	2.82	3.13	2.61	2.90	2.79	2.97	3.55	2.95	2.84	3.20	3.47	3.03	3.26	3.21	2.97	2.99	2.96	51.65	3.04	3.86
同大工	3.29	2.85	3.31	3.00	3.62	2.92	3.57	3.15	3.46	3.77	3.64	3.62	3.54	2.54	3.54	3.23	3.15	56.20	3.31	3.75
法	1.75	2.88	3.00	3.38	2.17	2.56	2.88	2.86	3.50	3.00	2.50	2.67	3.00	3.25	3.50	2.78	3.12	48.80	2.87	3.56
計	2.73	2.86	3.22	3.14	3.16	2.77	3.32	3.05	3.48	3.56	3.30	3.21	3.37	2.81	3.52	3.05	3.14	53.69	3.16	3.68
府 医	2.33	2.63	2.29	2.89	2.83	2.38	3.00	2.13	2.43	3.14	2.50	3.00	2.75	2.89	3.22	2.67	2.89	45.97	2.70	4.83
府大文	3.00	3.00	2.50	2.00	3.17	3.00	3.17	2.67	2.67	3.00	3.40	3.00	3.20	3.20	3.20	3.20	3.40	50.78	2.99	4.00
家学大	2.69	2.15	2.44	1.82	3.09	2.45	2.91	2.82	2.82	2.40	2.64	3.00	3.20	3.36	3.09	3.00	3.09	46.97	2.77	3.85
全 計	2.81	3.04	2.62	2.80	2.97	2.90	3.64	2.91	2.89	3.18	3.37	3.07	3.83	3.16	3.06	2.98	3.00	52.23	3.07	3.90

る。一般的教養と社会的訓練は別個の事項であるが、回答にはこれを併せて回答しているものが多かったので、これを一括した。この事項を第一にあげている点では他の大学出身者も同様であった。

専門教育の期間不足は、しばしば問題にされているところであるが、今回の被調査者の意見としては、約1割をこえる程度であり。同様に实际的知識の欠除も、1割程度の意見に過ぎない。

質問(14)は、大学教育全体に対する評価であり、またこれを一種のモラル調査とみなすこともできる。

表14はこの回答に関する原表、すなわち学部別、項目別の平均評定値一覧表である。総平均が3.07となっているが、これを基準として、比較的學生に満足にあたえていると思われる項目を順序にあげてみると、学部学科の区分専攻科目の内容、研究室ゼミの制度、文化活動等であり、これらは若干の学部を例外として一応及第点に達していると思われる。

これに対し比較的不満を感じさせていると思われる項目を順序にあげると、校内指導、施設・設備、教官との人間関係であり、ここにもいくつかの学部が例外的に及第点をとっている。教官との人間関係は、研究室やゼミの制度によって生じやすく、大体この関連性がみとめられるが、京大工学部は研究室ゼミの制度で最高値を示しながら教官との人間関係が低くなっているのは例外と考えねばならぬ。

全項目中4.00以上の高評定値を示しているのは京大工学部及び経済学部の研究室ゼミ制度、京大法学部の専攻科目内容であり、2.00以下の低評定値を示しているのは同志社法学部の教官との人間関係、京都学芸大及び府立大文家政学部の施設・設備である。

学部別総項目平均値をその学部のモラルの指標とすることには、異論もあろうが、この数値からいえば、同志社工学部、京大工学部・京大経済学部の順になる。

京大内について各学部を比較すると工・経・医・法・理・文・教の順となり、就職状況の順位とほぼ平行する。試みに質問(8)における職務満足度と対照すると、この相関は $r_s=0.46$ で関係があると考えられる。但し京大以外の学部についてはこの関係はみとめられない。

表15を細かく考察すると、一見奇異な事象が見出される。それは京大各学部の入試制度についての評定値が著しく異なることである。この質問の17項目はどの学部出身者にとっても共通のもの、たとえば入試、一般教養等の評定と、各学部出身者がそれぞれの学部独自の教育について評定すべき項目にわかれている。共通項目については、各学部の評定値はほぼ一致している。一般教養に関しても然りであり、語学の指導も然りである。もっともここでは、語学に対する特別のコースを設けている文学部だけが特別に高く評定されている。

ところで入試に関しては、学部への進学試験のある医学部は別として、各学部共通の入試だけを経験している筈である。何故このような開きが生じたのであろうか。説明には次の二通りの可能性が推測される。この調査での既出質問に入試批判がある。教育学部や文学部・理学部出身者は、教職教養等を通じ、やや批判的関心を抱いていた筈である。そこで既出の質問に答えた。こ

京都大学教育学部紀要Ⅹ

のように答えたことに拘束されて評定値が低くなったかも知れない。これは素資料から検討すれば、これが当たっているかどうか検証されることであるが、ここではまだこの分析結果は報告できない。もう一つの説明の可能性は、医学部の特殊事情を例外とすれば、入学の難しいとされている順に応じて、評定値が並んでいるという説明である。合格の誇りは、その難関を美化することになり勝ちだからである。しかしこのような憶測は実証することの難しい解釈に過ぎない。そこでこの説明は後日にゆずるのが穏当であろう。

京大の7学部について評定値3.00以上の項目数を学部別にしらべると、工・医・法・経では11個、文・理では8個であるに対し教育学部は2個と格段に少ない。また全般的にみて、制度的なものについては評定値が高いのに対し、運営面において評定値の低いものが多いのは反省に値することと思われる。

各学部毎に相対的に評定値の高い順に4項目、低い順に4項目をとりあげてみると、いわば学部の特徴や弱点がうかがえる。

工学部では、研究室ゼミ制度、専攻科目内容、学科の区分、進級制度に高く、校内指導自治活動、教官との人間関係、語学の授業内容に低い。理学部では専攻科目内容、学科区分、研究室ゼミ制度、文化活動に高く、校内指導、施設設備、授業方法、語学の授業内容に低い。医学部では、学科区分、単位制、運動部活動、進級制度に高く、教官との人間関係、語学の授業内容、研究室ゼミ制度、校内指導に低くなっている。教育学部では研究室ゼミ制度と教官との人間関係だけが高く校内指導、施設設備、語学の授業内容、学科の区分において低い。文学部は語学の授業、専攻科目内容、文化活動、授業方法に高く、就職指導、学生相互の交流、一般教養科目に低くなっている。法学部では専攻科目内容、学科の区分、単位制、研究室ゼミ制度に高く、教官との人間関係、校内指導、語学の授業、学生相互の交流に低い。経済学部では研究室ゼミ制度、専攻科目内容、教官との人間関係、運動部活動に高かく、校内指導、語学の授業、授業方法、学生相互の交流に低くなっている。

- (15) あなたがお受けになった大学教育において、とくに物足りなかった、またはして欲しかったことをできるだけ沢山あげて下さい。それは、何故ですか。

第15表 Q15. に対する□答要旨
(京大出身者のみ)

要 旨	反 応 数	%
(1) 教官との結びつき	52	19.4
(2) 実用的教育	29	10.8
(3) 専門ゼミの充実	20	7.5
(4) 語学教育	18	6.7
(5) 授業方法の改善, スタッフ増	18	6.7
(6) 専門期間の延長	18	6.7
(7) 学部間の交流	16	6.0
(8) 教養課程の改善	15	5.6
(9) 相談指導の充実	14	5.2
(10) 厚生施設の充実	13	4.9
(11) 人間形成	10	3.7
(12) 授業をきびしく	8	3.0
(13) 奨学金の増額	6	2.2
(14) 研究費の増額	2	0.7
(15) だいたいよい	7	2.6
(16) その他	8	3.0
(17) 無記入	14	5.2
計	268	

質問(16, 17)はそれぞれ、大学生生活

(6) 「大学教育」全般に関して何でも結構ですから御意見や、御感想があればお聞かせ下さい。

第16表 Q₁₆. 大学教育全般に対しての意見
(京大出身者のみ)

要 旨	反 応 数	%
(1) 専門教育の必要	37	18.0
(2) 人間形成に対する教育の要求	35	17.0
(3) アカデミズム, 自由, 中立を守れ	21	10.2
(4) 大学年限の延長	16	7.8
(5) 師弟, 学生間の交流を深めよ	14	6.8
(6) 学閥を解消せよ	11	5.3
(7) 個人教育を徹底させる	8	3.9
(8) 教官の待遇を改善せよ	8	3.9
(9) 地方差をなくせ	7	3.4
(10) 大学偏重をなくせ	7	3.4
(11) 設備の充実を望む	4	1.9
(12) 現状でよい	2	1.0
(13) その他	3	1.5
(14) 無記入	33	16.0
計	206	

の体験からの改善充実についての要望と、「大学教育」全般についての意見や感想を求めたものである。自由記述による回答を要約し、その要旨毎に分類統計したものが表 15, 16 に示される。

表15における教官との結びつきが、大きな頻数を示していることは、改めて考えさせられる問題であり、表16における専門教育の充実と人間形成の教育への要望は、従来から言い慣わされてきたことではあるが、この調査の回答者のような若年層においても、第1, 2位をしめる意見であることは注目されてよからう。

Ⅱ 調査 B の 概 要

質問項目 (1) (2) は回答者の氏名所属等に関するもの、(16) はこの調査についての批判を求めたもので、これを省略する。

回答を求めた職域の範囲を官庁・公社・生産会社・商事金融・マスコミに分類し、比較検討を行いながら、職域の大学教育に対する要望を明らかにしようとする。

(3) あなたの^{官庁}会社で大学卒業生を採用されるのはなぜですか。(下のいずれかの項目に○印を付して下さい)

- (イ) 大学の特定の学科の専攻者を必要とする。
 - (ロ) 大学出であり、しかもある学問領域または近接領域の専攻者を必要とする。
 - (ハ) 大学卒であれば、専攻はとくに関係しないが将来の幹部候補者として必要とする。
- 付 記 (何か付言があれば書いて下さい)

第17表 Q₃ 大学卒業生採用の必要の理由

	イ	ロ	ハ	欠	計
官 + 公	11 (34.4)	9 (28.1)	11 (34.4)	1 (3.1)	32 (100.0)
会 社	37 (28.5)	47 (36.2)	46 (35.3)	0	130 (100.0)

京都大学教育学部紀要 X

質問(3)は、大学卒業生を採用している職域での、採用の理由を(イ)(ロ)(ハ)の選択項目に分けて問うたのであるが、官庁・公社・会社の両群共にこの答はほぼ均等に選択されていて、この間に差異があるとはいえない。

質問(4)の回答を要約し、12の要旨に分類しその分布の多いものを○印で示したのが表18であるが、全体的に見ると、具体的処理能力と実務を軽視する傾向と実行を伴わない議論や批判が多いというのが1位2位をしめている。官庁とマスコミにおいてはそれを第一の欠点としているのは注目される。

質問(5)によってこれらの職域で、大学出身者を採用する場合に、選抜のきめてとして重点をおいている事項の評定値の一覧表である。官庁には特徴的なものは見られないが、公社及びマスコミにおいては人物調査表に重きをおき、生産・商事・金融・会社においては面接時の態度に重みをおいている点が対照的である。

質問(6)によって特に注意されている特性で高い比率であげられているものの一覧表が表20であるが、全体の傾向としては、学力や基礎知識、健康が1位2位をしめている。しかし職域別ではそれぞれのねらいがちがっている。官庁においては、意志のつよさ、誠実さ、協調性が上位をしめ、公社では上品で明朗な人、商事・金融では、研究心と向上意欲、マスコミでは愚想的偏りのないことが高比率を示している。

(4) こまでに、あなたは大学を出た人を「大学出のくせに」とか「大学出のものが、あんな状態では」といつたふうに、特に大学出ということを意識して、従業員を見られたことがあると思います。それはどのような時か、大学出に見られる共通の欠点を説明して下さい。

- 1.
- 2.
- 3.

第18表 Q4. 大学出身者共通の欠点

要 旨	公	官	会 社			官+公	会社	全体
			生産	商事 金融	マス コミ			
1. 積極的な実行を伴わぬ議論・批判が多い	○		○		○		2位	2位
2. 指導性に乏しい		○						
3. 具体的処理能力と実務知識の軽視	○	○	○	○		2位	1位	1位
4. エリート意識過剰		○			○	1位		
5. 専門知識、技能不十分								
6. 責任感に乏しい								
7. 社会的常識、礼儀に欠ける		○						
8. 人間的に未完成								
9. 仕事のより好みをする		○						
10. ルーズ、規律を守らない								
11. 打算的								
12. 職業に必要な勉強をしない				○	○			

(パーセンテージの高いものを上から2位までとったもの)

倉石・嶋中・鎌・住田：「大学教育の社会的要請に関する世論調査」から

(5) 次にあげるもののうちで、特に採用後の勤務成績や実力と関係がふかい、従って選抜の際に大切と考えられるものをその順に番号を付して下さい。

- () 卒業時の学業成績 () 人物の調査書 () 信用ある人の紹介状
 () 教養課目の成績 () 面接時の態度 () 出身校
 () 大学の新卒であるということ () 大学へ浪人でなく現役で入学したこと

第19表 Q5. 採用時に重点をおいている事項

	官	公	会 社			官 + 公	会 社
			生 産	商 事・金 融	マ ス コ ミ		
卒業成績	2.53	2.67	2.30	2.89	2.83	2.56	2.46
人物の調査	2.37	1.50	2.97	2.61	1.92	2.16	2.79
紹介状	3.68	2.00	3.97	3.50	3.25	3.28	3.81
教養成績	3.47	2.00	3.36	3.39	2.67	3.12	3.19
面接態度	2.42	2.00	1.97	1.50	2.17	2.32	1.91
出身校	3.16	2.16	3.18	3.67	3.50	2.92	3.31
大学新卒	4.00	1.67	3.61	2.83	2.25	3.24	3.32
現役入学	4.26	2.50	4.70	4.50	3.75	3.80	4.56

評価＝順位点平均（したがって平均の低い方が重要）

(6) 社員の選抜にあたってあなたが特に注意される点は何ですか。具体的に説明してください。

第20表 Q6. 採用時に望まれる人物の特性

	官	公	会 社			官 + 公	会 社	全 体
			生 産	商 事 金 融	マ ス コ ミ			
1. 健康		○	○				2位	2位
2. 新鮮な感覚								
3. 人物本位（漠然と）								
4. 上品で明朗な人		○				2位		
5. 勤勉で忍耐強い人								
6. 研究心あり、向上の意欲のある人				○				
7. 意志のつよい人	○					1位		
8. 誠実な人	○			○		2位		
9. 社会の為にという職業意識ある人								
10. 健康な判断力のある人								
11. 協調性	○							
12. 指導性								
13. 学力、基礎知識			○		○		1位	1位
14. 思想傾向					○			
15. 家庭環境								
16. 企画性								

(パーセンテージの高いものを上から2位までとったもの)

京都大学教育学部紀要Ⅹ

質問(7)は大学出身者とそれ以外の学歴の人と比べて、どういうちがいがあるか、職域における判断で5段階評定を求めたものであるが、どの職域も大差のない評定値を示している。試みに評定値4.00以上と2.00以下の項目をひろってみると、大学出身者が他の人とはちがう点として特色づけられていることは、社会性があること、物事を客観的にみること、思想、考えがよく展開し判断が正しいこと及び劣等感が少ないことの4点になる。

- (7) 大学卒がそうでない人に比べて、つぎのような言葉で示されるようなおのおのの傾向について、ちがいがあるか5段階で評定して下さい。
- (5) 大学出の方がとても大である (4) 大学出の方が一般に大きい
 (3) 同じ程度であるが、どちらともいえない (2) やや大学出の方が小である
 (1) 大学出の方が小である (0) わからない

1. 社会性がある	7. 命令したことに対してよく服従し、厳守する
2. 思想、考えがよく展開し、判断が正しい	8. 劣等感がある
3. 気分的に変化することが多く、気が変わりやすい	9. 神経質な場合が多い
4. いつも、また、見た感じがいきなことが多	10. ものごとを客観的にみる
5. のんきである	11. ひとを攻撃することが多い
6. 活発で活動的である	12. ひとと協調して仕事をする

第21表 Q7. 大学出身者の特徴

	官	公	会 社			官 + 公	会 社
			生 産	商事・金融	マスコミ		
1. 社会性	4.00	4.33	4.00	4.12	4.00	4.08	4.02
2. 正しい思想	4.32	3.83	4.18	4.18	4.17	4.20	4.18
3. 気分の変化	2.67	4.00	2.83	2.50	2.82	3.00	2.79
4. いんき	1.88	2.00	2.49	3.00	2.44	1.91	2.53
5. のんき	2.94	3.40	3.03	3.33	2.56	3.28	3.16
6. 活動的	3.63	3.40	3.38	3.31	3.45	3.58	3.34
7. 服従厳守	3.15	2.20	2.83	2.80	2.73	2.87	2.82
8. 劣等感	1.35	2.50	1.52	1.54	1.45	1.52	1.52
9. 神経質	2.44	3.80	3.16	3.30	3.40	2.76	3.20
10. 客観性	4.32	4.00	4.04	4.19	3.92	4.08	4.05
11. 攻撃性	2.82	3.83	3.26	3.45	3.27	3.09	3.29
12. 協調性	2.89	3.33	3.07	3.25	3.09	3.00	3.19

質問(8)で最近の大学卒業者の以前のそれとのちがった点を自由記述で指摘した回答から要約したのが表22である。

全体として、利己的、独善的であることを指摘し、合理的であるとするのが2位をしめている。特に官庁とマスコミにおいては、合理的であるとするかわりに、打算的としている点の特異である。

質問(10)によって、大学出身者を使用する立場で「有能」とか「役に立つ」という言葉の意味

倉石・岨中・鎌・住田：「大学教育の社会的要請に関する世論調査」から

(8) ごく最近数年の大学卒業生は、それ以前の戦中派またはそれに近い大学卒業生とどういった点で特にちがいがありますか。

第22表 Q8. 近頃の入学生の特徴

	公	官	会 社			官+公	会社	全体
			生産	商事 金融	マス コミ			
1. 卒直								
2. 積極的								
3. 好意的								
4. 合理的	○		○	○		2位	2位	2位
5. 社会性に富む								
6. 現実的	○							
7. 利己的・独善的	○	○	○	○	○	1位	1位	1位
8. 打算的		○			○	2位		
9. 個性に乏しい								
10. 人物教育不足・人間的に未完成				○				
11. 職業意識に乏しい				○				
12. 知識がアンバランス								
13. 批判はするが実行力乏しい								
14. 知識・考えが深い								
15. 研究心なし								
16. 礼儀に欠ける				○				

(パーセンテージの高いものを上から2位までとったもの)

(9) あなたの^{官庁}会社では、新採用者(大学卒)に訓練を実施していますか。 する しない
その他()

(する場合) 訓練の期間: _____
内 容 : _____
目 的 : _____
成 果 : (5) 非常にある (4) ある程度ある (3) ある場合もあり、ない場合もある (2) わからない (1) ない

第23表 Q9. 新採用者訓練の成果についての評定値

	官 公		会 社				官公計	会社計	全 計
	官	公	生 産	金 商 融 事	マ ス コ ミ				
成 果 の 評 価	4.47	4.80	4.35	4.38	4.33	4.54	4.35	4.45	

◎訓練をする { 官公 100%
 { 会社 90.7%

新採用者訓練の実施は今や、ほとんどの職域に実施されており、その成果は高く評価されている。

京 都 大 学 教 育 学 部 紀 要 X

- (10) 大学における“有能な”人物ということと現場において“有能な”とか“役に立つ”人物ということとは、要求する目的や言葉のもつ意味が多少異ってくると考えられます。たとえば「使いやすしい」とか「きれる人」とかいった表現もあるでしょうし、別の観点から「こつこつやる人」「仕事の分野に、せまいが精通している」「広い範囲にわたりよく知っている」といった、仕事ぶりの描写からの表現などいろいろな意味があると思いますが、あなたの場合“役にたつ人”というのは、どんな人ですか。

第24表 Q10. 役にたつ人の意味について

	官 公		会 社			官+公	会社計	全計
	官	公	生産	商事 金融	マス コミ			
1. 研究心に富み積極的	○	○	○	○	○	1位	1位	1位
2. 創造性があり、企画力に富む								
3. 理解力・判断力に富む	○	○	○			2位	2位	2位
4. 誠実な人				○	○		2位	
6. 協調性・社会性ある								
5. 広範な知識をもっている								
7. 指導性に富む								
8. 命令に忠実な人								
9. 職務に精通している人								
10. 論理的能力に秀でている人								
11. 物事をテキパキ処理できる人								

○印はパーセントの高いもの

- (11) つぎに、大学で学生が修得する項目がいくつかあります。あなたの立場から適当と思われる項目を○でかこんでください。
- 語学は(英, 独, 仏, 露, ___)を(よむ, かく, 話す, ___)の程度にしてほしい。
 - 専門以外の一般教養は、どちらかといえば(広く浅く, せまく深く)勉強してほしい。とくに(科学 法律 文学 社会 哲学, ___, ___, ___, ___, ___, ___)は知っていてほしい。
 - 大学時代における専攻は、入社後のその人の業績に(5)大いに関係する,(4)やや関係がある,(3)どちらともいえない,(2)あまり関係がない,(1)全然関係がない。
 - 大学時代における思想傾向は入社後のその人の行動に(5)大いに関係する,(4)やや関係がある,(3)どちらともいえない,(2)あまり関係がない,(1)全然関係がない。
 - 文科系の人々に数学を課することについて,(イ)理科系の人と同程度に必要,(ロ)基礎程度の高等数学が必要,(リ)数学に関する基礎的な知識は必要,(ニ)どちらでもよい,(ホ)必要と思わない,(ヘ)わからない。
 - 理科系の人々に文科系の授業を課することについて(イ)文科系の人と同程度に必要,(ロ)基礎的な知識体系を与えることが必要,(リ)常識的知識を与えることが必要,(ニ)どちらでもよい,(ホ)必要と思わない,(ヘ)わからない。

第25表 Q11. の a 語学についての要求

	官 公		会 社			官+公	会社計	全 体
	官	公	生 産	商 金 融 事 業	マスコミ			
英 独 仏 露	100.0	100.0	98.7	100.0	100.0	100.0	99.0	99.2
	15.8	33.3	24.3	0.0	8.3	20.0	18.3	18.6
	5.2	33.3	8.1	5.6	8.3	12.0	7.7	8.53
	5.2	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.8
読 書 話 聞	63.2	83.3	79.7	72.2	75.0	68.0	77.9	76.0
く	10.4	66.7	52.7	66.7	41.7	24.0	53.8	48.1
す	36.8	66.7	43.2	77.8	75.0	44.0	52.9	51.2
く	0.0	0.0	1.4	5.6	0.0	0.0	1.92	1.6

(パーセンテージ)

第26表 Q11. の b 一般教養についての要求

	官 公		会 社			官+公	会 社	全 体
	官	公	生 産	商 金 融 事 業	マスコミ			
広 く 浅 く	94.7	83.3	83.8	94.4	100.0	92.0	87.5	89.75
せまく深く	0.0	0.0	2.7	5.6	0.0	0.0	2.9	1.45
そ の 他	5.3	16.7	13.5	0.0	0.0	8.0	9.6	8.8

(パーセンテージ)

第27表 Q11. の c 大学の専攻と業績の関係

	官 公		会 社			官+公	会 社	全 体
	官	公	生 産	商 金 融 事 業	マスコミ			
関係ありの程度	4.47	3.67	4.22	3.94	3.58	4.28	4.10	4.19

(5点尺度の平均値)

第28表 Q11. の d 大学生時代の思想とその後の行動との関係

	官 公		会 社			官+公	会 社	全 体
	官	公	生 産	商 金 融 事 業	マスコミ			
関係ありの程度	3.74	3.67	3.73	4.00	4.17	3.72	3.83	3.77

(5点尺度の平均値)

を求め、回答された定義をならべてみると、表24の左欄のようになる。この中からそれぞれの職域から高率で回答されたものを○印で示してある。すなわち、研究心に富み積極的という特性が、どの職域においても役に立つ大学出身者のイメージであり、第二位として官・公・生産で、理解力判断力に富む、商事・金融・マスコミでは、誠実な人があげられている。

京都大学教育学部紀要 X

第29表 Q11. の e 文科系の数学についての要望

	官 全		公 社			官+公	会 社	全 体
	官	公	生 産	金 融 商 事	マスコミ			
イ. 理系と同程度	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	1.0	0.5
ロ. 高等数学基礎	36.8	33.3	43.2	22.2	33.3	36.0	38.5	37.3
ハ. 基礎・知識	63.2	66.7	54.1	72.2	66.7	64.0	58.7	61.3
そ の 他	0.0	0.0	1.4	5.6	0.0	0.0	0.8	0.4

(パーセンテージ)

第30表 Q11. の f 理科系の文科的教養についての要望

	官 公		会 社			官+公	会 社	全 体
	官	公	生 産	金 融 商 事	マスコミ			
イ. 文系と同程度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ロ. 基礎知識	47.4	33.3	44.6	38.9	50.0	44.0	44.2	44.1
ハ. 常識的知識	52.6	50.0	52.7	50.0	33.3	52.0	50.0	51.0
そ の 他	0.0	16.7	2.7	11.1	16.7	4.0	5.8	4.9

(パーセンテージ)

質問 (II) は外国語教育や一般教育についての要望を a~f の 6 項にわたって問うたものであるが、まず表25の語学についての要求についてはほとんどの回答が英語だけにしぼられ、第2外国語に対する要求は公社と生産会社の一部を除いてきわめて低い。そして旧制高度以来の英独仏に限定されている。読む書く話すについては官庁と生産会社が依然として読むことに重点をおき商事金融・マスコミでは話すことを読むと同等あるいはそれ以上に重視していることがうかがえる。

表26の一般教育については、問い方がまずかったせいか、ほとんどが、どちらかといえば広く浅く勉強してほしいと希望している。一般教養課目の選択に際し、高校時代の選択科目を殊更に反復する傾向のある大学の現状とは対立的な意見といえよう。またこれらの職域で要求している一般教養科目は多い順に、法律、科学、社会学、経済学、文学、哲学、数学、心理学、経済学、統計学等である。

表27で大学における専攻と業績と関係では専門職種の確立している官庁においては極めて高く、生産会社がこれにつき、公社関係では「やや関係がある」と「どちらともいえない」の中間値をとっている。

表28の大学生時代の思想傾向と入社後の行動について関係を4.00以上の値でみとめているのがマスコミと商事・金融であり、他は「やや関係がある」と「どちらともいえない」の中間値をとっている。

表29で文科系学生に基礎程度の高等数学を必要としている程度は、生産会社の半数近くが要求しているのが目立つ。また、表30で理科系学生に対する文科的教養を要求する度合はマスコミ・

官庁・生産会社の順になっていて、全体的にみて、文科系の高等数学に対する要求より、理科系の文科的教養をより必要とする傾向が見える。これは回答者の大部分が文科系出身者であることから生じている傾向であろうか。

質問 (12) は大学学部卒業程度の専門教育に対し、職域の期待の程度を、記述尺度で評定させたものであり、平均値はいずれも 4 と 3 の間にある。理工系の専門家を必要としている生産会社では、専門の基礎教育をうけ将来の専門家の素質をもったものとして期待している。官庁や公社も、

- (12) 大学での専攻部門の教育は一般に専門課程の 2 年間で行なわれます。採用の際にこれら専門課程で培われる実力に対して、どの程度の期待をもっておられますか。
- (5) 全く専門の実力をもった専門家として期待, (4) 専門の基礎教育を受け将来の専門家の素質をもったものとして期待, (3) 専門は単にその人の能力を仕事の上に、その専攻分野から活かす場合の縮口であればよく、それほど高度の専門能力は将来とも不必要, (2) 大学教育を受けたこと自体が重要で専門如何はそれほど関係しない, (1) 個人の人格の方が大事で専門には全く期待していない。

第31表 Q12. 大学の専門教育に対する職域の期待

	官 公		会 社			官公計	会社計	全 計
	官	公	生 産	金 融 商 事	マスコミ			
期待する程度	3.89	3.83	3.92	3.22	3.25	3.88	3.72	3.80

(5 点尺度の平均値)

ほぼこれに準ずるが文科系出身者の多い商事・金融、マスコミでは、それほど高等の専門能力は将来とも不必要としている。

質問 (13) は近年の採用試験を通じて見た大学卒業生の評価に関するものであるが、こぞって低く評定しているのが、礼儀であることが注目される。また官庁を例外として他の職域は外国語を低く評定している。官庁では人事院の行う資格試験に合格したものだけを採用の対象にしており、この資格試験に直接関係していない特殊な事情も考慮する必要がある。一般に高く評定されているのが、社交性であり、戦後の教育の特色の一つといえよう。

その他の項目については職域毎の評定値の差が著しいものがある。概してマスコミは点が辛く、殊に一般教養の学力の評定については官庁との間に一けたのずれがある。官庁へ就職しようとする学生とマスコミ関係へ就職しようとする学生のちがいとみられるが、あるいは官庁的センスとマスコミ的センスのずれを反映しているのかも知れない。

質問 (15) に対する回答として表33左欄にあげられる13個の要望・意見が回答された。そのうち職域毎に重点のおかれているものを○印で示したが、全体的に見て専門教育の充実と教養過程の充実が要望されている。いわばこれは大学のすべてであり、この充実が要望されていることになる。これ以外に高率を示しているのが官庁関係における公務員の社会的意義を認識せよ、公社に

京都大学教育学部紀要 X

(13) 近年の採用試験を通じて大学卒業生をつぎのような観点から、それぞれ5段階に評定し御批判下さい。意見のところにそれぞれについて、あなたの気付いたことを記入して下さい。(5—最もよい1—最もわるい)

項目	評定	意見	項目	評定	意見
一般教養学力 外国語学力 専門学力 常識 礼儀			社交性 指導性 独創性 決断力		

第32表 Q18. 採用試験を通じてみた大学卒業生の評定

	官	公	会 社			官 公	会 社
			生 産	商事・金融	マスコミ		
一般教養学力	3.53	3.33	3.22	3.17	2.73	3.48	3.16
外国語学力	3.18	2.50	3.04	2.94	2.73	3.00	2.93
専門学力	3.42	2.67	3.52	3.28	2.80	3.24	3.37
常識	3.32	3.00	3.22	3.17	3.37	3.24	3.25
礼儀	2.63	2.00	2.68	2.50	2.55	2.48	2.63
社交性	3.67	4.17	3.75	3.83	3.82	3.79	3.77
指導性	3.00	3.33	3.26	3.00	2.82	3.08	3.16
独創性	3.16	2.50	3.00	3.06	2.91	3.00	3.00
決断力	3.21	2.67	3.15	3.17	2.91	3.12	3.12
平均	3.24	2.91	3.32	3.12	2.96	3.16	3.15

(15) その他、大学に対する御要望、御意見がございましたらお聞かせ下さい。

第33表 Q15. 職域より大学に対する要望

要 旨	官	公	会 社			官+公	会社	全体
			生産	商事 金融	マス コミ			
1. 公務員の社会的意義を認識せよ	○					1位		
2. 地道に能率的に研究できる人を養成せよ			○					
3. 本人の意志が曖昧								
4. 産学協同の態勢が必要								
5. 職業教育に重点をおけ								
6. 学生の本分を守り、過激な行動はとりまれ								
7. 教養過程の充実をはかれ	○	○		○		1位	2位	2位
8. 専門教育の充実をはかれ		○	○	○	○		1位	1位
9. 師弟関係・人間関係からの教育								
10. 教官の紹介不十分、卒業生をよく知れ					○			
11. 大学の特色を出せ								
12. エリートとしての使命感を涵養せよ								
13. 推薦・選考・開始時期の厳守		○						

○パーセンテージの高いものを上から2位までとったもの

おける推薦選考開始時期の厳守，マスコミ関係の学生のことを教官がもっとよく知って指導教官としての射た人物紹介を要望するなど，就職問題に関連して強い要望ののでているのは注目すべきである。

む す び

この調査は，高等教育に対する社会的要請の一端を明らかにするために，新制の大学生活を経験して社会人となっている人々及びこれらの大学卒業者を採用する立場にある人々に郵送による質問紙法で行われたものである。

調査Aは京都大学の文科系4学部と理科系3学部及びこの対照群として若干の在洛諸大学から，合計600人の標本を選び，35.5%の回答を得た。調査Bは，官庁・公社及び民間企業（生産会社・商事金融会社・マスコミ関係会社を含む）300を選び，人事部長もしくはこれにかわる人事担当者の回答を求め43%を回収した。

I，IIの章で，それぞれの調査結果の一次集計の資料に基いて，それぞれの問題点を概略したので，ここに重複をさけるが，これらの資料から抽象的に言うことは，いずれの層からも，大学教育に対する改善意見が積極的に打出されていることである。

一般教育の諸問題，専門教育の充実等ばかりではなく，教官との人間関係や授業の方法等，管理運営に関する問題点が指摘された。

特に京都大学の各学部については，学部の性格のちがいに応ずる問題点が，明らかにされたように思われる。京都大学出身者は，大学の制度や機構に対して，大体高く評価しているのに対し，運営面である校内指導，一般教育，専門教育の授業法等に対し，不満を示す傾向が見出された。

大学教育の目標については多々の意見があり，またこれを一本に統制することの非はいうまでもないことであるが，種々の理念が，現実と，どうかかわり合うかを明らかにし，今後の高等教育の改善の方策を打出す必要がある。

この調査の一次集計資料からは，ただ抽象的に問題を提起するにとどまっているが，今後この粗資料を分析し問題をもっと具体的な層において解明してゆく準備がある。各位の御叱正を期待して止まない。